

## ハワイ大学短期留学

長男の高校は電気科だった。ゆくゆくは私の跡取りで家業を継がせたいと思っていた。三年の夏頃になり、進学予定の友人が現れた。長男は進学したいが、その為の勉強をしてこなかった。進学したいと親に相談持ちかけてきた。

いろいろ長男が調べて、東京の電子工学院に入りたいと言う。早速二人で学校を見に行った。電気工学科、二年履修、入学試験は無い。アメリカ式の学校で、入学し易いが、卒業は真面目に勉強し、頑張らないと卒業は難しい。入学しても半数は脱落していく様だ。

秋になって入学願書を提出、入学が決まった。進学が決まってからは長男の明るさが増してきた。同級生の進学を見せつけられて居たから、侘びしい気持ちで居たのだろう。しがない電気屋の倅である、学費の事も頭に浮ぶのだろう、快く進学を許されたから、嬉しかった気持ちがよく分かる。

翌年の四月入学式には私が参列した。その時に訊いた学長の言葉の中に「文部大臣が入学式に参列されるのは、東大と当電子工学院だけである」と言われた。大学と言えば入学が難しく、卒業が比較的楽な気配がある。工学院は電気の大手の会社、数社で設立した学院だ。

入学が楽だが、卒業が難しい。長男は仕送りが少ないのに、よく頑張ってくれた。足りない分をアルバイトでカバーしていたようだ。二年に進級しての春、長男より夏休みの一ヶ月間、ハワイ大学に夏短期留学がある、との話を聞いた。妻と相談、何とか費用を工面できると思い参加するよう伝えた。

何年か後で長男は「行けるとは想像もしてなかった、諦めていたのが本当に嬉しかった」と話してくれた。その言葉を聞いて私達は子供を育てる喜びを知った。

学問の厳しさの中、約半人数が脱落していく同窓生を後目に、二年間で卒業してくれた。

平成十三年一月私達は、東京の妹夫妻と共にハワイ観光旅行に参加、ハワイ大学前の通りを、長男の嬉しかった気持ちを思い、通過したバスの中から昨日のように思い出され、楽しいハワイ旅行を偲んだ。